

もくじ

- P.1 第8回アジア社会福祉セミナー開催
- P.4 アジア研修生第1回施設研修報告
- P.7 2024年度アジア社会福祉従事者研修修了生助成事業中間報告
- P.8 国際交流・支援活動会員募集のご案内 ほか

アジア各国の福祉課題・社会問題に 立ち向かう修了生が日本で再会 ～第8回アジア社会福祉セミナーを開催～



全社協・アジア社会福祉従事者研修の修了生たちの多くは、現在、母国の社会福祉現場のリーダーとして活躍しています。こうした修了生たちを再び日本に招き、日本の福祉関係者とともに各国の福祉課題・社会問題について学び合う「アジア社会福祉セミナー」を、1989年から5年ごとに開催してきました。

開催年となる今年度は、第8回となるセミナーを10月1日から5日間、7か国・74名の修了生と第38期研修生5名、さらに多くの日本関係者が参加し、ロフォス湘南(神奈川県葉山町)をメイン会場に開催しました。

セミナーの期間中、「国際社会福祉機器展(H.C.R.2024)」国際シンポジウムにおいて修了生および各国の学識者が発表を行い、200名を超える一般来場者も含め、各国の福祉課題・実践への相互理解を深めました。また、「修了生同士」、「日本関係者×修了生」による意見交換を通じて、これからの国際交流・支援事業について考えました。

今回のセミナーでは、①アジア各国の社会状況や福祉課題、それに対する福祉関係者の実践等に関する情報交換の場とすること、②修了生と日本関係者がフェイス to フェイスで交流し、顔の見える関係のなかで意見を交換することをポイントとし、以下のプログラムを実施しました。

社会問題・福祉課題への対応について、国を超えて議論する ～国際福祉機器展(H.C.R.)2024に登壇

アジア各国の社会状況や福祉課題、それに対する福祉関係者の実践等に関する情報交換を行うためのプログラムとして、10月3日に「国際福祉機器展(H.C.R.)2024」(会場：東京ビッグサイト)の国際シンポジウムに修了生7名が登壇、日本や各国の福祉関係者とともに実践発表を行いました。

アジア各国の福祉トレンドを伝え、修了生たちの活動を発信する機会となるとともに、H.C.R.の視察や多くの国内関係者が参加した「交流会」をあわせて実施し、充実したプログラムとなりました。

【国際シンポジウム概要】

第1部「アジアの高齢化の現状と高齢者の自立生活に向けた支援」

コーディネーター	実践発表者					
	〈日本〉	〈韓国〉	〈韓国〉	〈台湾〉	〈台湾〉	〈タイ〉
						
湯川 智美 氏 (国際社会福祉基金 委員会 委員長/ 社会福祉法人六親会 理事長)	柿本 貴之 氏 (全国経営協 高齢者 事業経営委員長/ 社会福祉法人暁谷 福祉会 理事長)	ジョン ムーソン 鄭 茂晟 氏 (韓国社会福祉協議 会副会長/現代車 財団 理事長)	ソン キョク 成 耆玉 氏 (16期修了生)	チェン インシウ 陳 盈秀 氏 (台湾衛生福利部 専門委員)	ウー ショウヘイ 吳 淑恵 氏 (11期修了生)	ソムラック 氏 (8期修了生)

「高齢化」への対応が共通テーマである日本、韓国、台湾、タイの4か国の福祉関係者が登壇。各国の高齢化の現状や政策動向についてレポートするとともに、高齢者の自立生活支援について、身体的な健康サポート、心のケア、社会とのつながりづくり・社会参加等、各国での実践を紹介しました。

第2部「アジア各国の社会福祉事情と修了生の活動」

コーディネーター	実践発表者			
	〈マレーシア〉	〈フィリピン〉	〈スリランカ〉	〈インドネシア〉
				
原島 博 氏 (ルーテル学院大学 教授)	スティーブン 氏 (11期修了生)	ジュリエット 氏 (36期修了生)	セートウンガ 氏 (2期修了生)	アニサ 氏 (35期修了生)

それぞれ異なる状況・福祉課題のある4か国の修了生が登壇しました。貧困、教育格差、災害支援など、各国にあるさまざまな福祉課題を取り上げ、それらに対する修了生の活動をレポートしました。

パートナーシップのもと、国際福祉に取り組む未来へ ～フェイス to フェイスで行う交流／意見交換

10月4日に「意見交換会」として、各国の情報・修了生たちの活動について共有したうえで、今後の国際交流・支援事業についての意見交換を行いました。本プログラムの実施にあたっては、事前（10月2日）に修了生・研修生たちが国別でグループ討議を行い、課題整理・共有をしたうえで、24名の日本参加者を交えて意見交換を行いました。



日本の福祉関係者と修了生が情報交換を行い、国際交流・支援事業のあり方について意見を交わしました



修了生は、施設研修でお世話になった法人関係者との再会や新たな出会いに感激していました

《修了生から見る各国の福祉課題／福祉業界の課題(テーマ)》

※小グループでの議論を一部抜粋

各国共通の課題として出たテーマ	<ul style="list-style-type: none"> 福祉の人材確保、育成 専門性の高い支援に向けた体制づくり 大規模な自然災害発生時の支援
韓国	<ul style="list-style-type: none"> 高齢社会への対応 施設の小規模化、地域移行への対応 専門性の高い支援に向けた外部専門職との連携強化
台湾	<ul style="list-style-type: none"> 住民同士のつながりづくり ICT活用による福祉現場の業務改善
フィリピン	<ul style="list-style-type: none"> ストリートチルドレンへのサポート 人身売買等から子ども／女性を守る 高齢者施設への偏見（介護は家族で担うものという固定概念）
タイ	<ul style="list-style-type: none"> スラム街の貧困問題への対応 貧困家庭の子どもへの教育 戦争による難民への支援、無戸籍者への医療・福祉の保障
マレーシア	<ul style="list-style-type: none"> 障害者への理解が進まず、障害がある子どもに対する支援が難しい
スリランカ	<ul style="list-style-type: none"> 貧富の格差、貧困問題への対応 高齢者施設への偏見（介護は家族で担うものという固定概念） 社会的養護施設 退所後の支援
インドネシア	<ul style="list-style-type: none"> ジェンダー問題、女性の自立支援 貧困等を理由に学校に行かない／行けない子どもが多く、教育格差が深刻

参加者は国の垣根を越えて編成された小グループに分かれ、各国の福祉事情・課題を共有したうえで、「全社協の国際交流・支援事業の中長期的な事業展開」をテーマに意見交換を行いました。

修了生からは、「各国で共通する福祉課題について、ともに学ぶ機会をつくりたい」、「オンラインを活用しながら、顔を合わせて交流できるセミナーも大切にしたい」、「各国の福祉をより高めていくための人材、修了後に各国ネットワークの要となる人材を育成していくため、アジア社会福祉従事者研修のプログラムを充実してほしい」といった意見が出されました。

全社協・国際社会福祉基金委員会では、本セミナーで得られた修了生、日本関係者からの意見をふまえ、今後の国際交流・支援事業の充実を図るための検討を進めてまいります。

アジア研修生が日本の福祉施設で学んだこと ～第1回施設研修を実施しました～

第38期研修生5名は、学びたいことや母国での活動分野に焦点を当て研修先を選定し、7月16日から8月30日に日本の社会福祉施設の現場を経験しました！ 研修にご協力いただきました法人・施設の皆様にこの場をお借りして厚く御礼申し上げます。

約1か月半にわたる研修の報告として、それぞれの「気づき」や「学び」を紹介します。

チョイさん（韓国）

社会福祉法人 大慈厚生事業会
（兵庫県）

研修を通して母子生活支援施設がどのような施設か、どのような取り組みをしているのかを知ることができ、勉強になりました。相談支援や生活支援は母子の自立のために必要で大切な支援であると思いました。母子生活支援施設「ハーバー大慈」以外にも、神戸市のさまざまな施設やセンターを見学し、それぞれの活動やサービスについて知ることができたのもよかったです。

保育の場面では正座や、横に座っての研修でした。普段経験がなかったため、大変でしたが、日本文化について学ぶことができ良い経験となりました。また、職員と子どもたちがリラックスして敬語を使わずに話す光景をよく見かけ、上下関係をあまり感じないことに驚きました。韓国の保育の現場とは違うため、印象深く残っています。



ファンさん（台湾）

社会福祉法人 海望福祉会
（富山県）

私は、母国ではサ高住で相談支援を担当しており介護の経験がありませんでしたが、今回の研修を通し、実際に食事介助やおむつ交換等、さまざまな場面で介護技術を学ぶことができ良い経験となりました。また、利用者と同じ食事をとることで、日々どのような食事をしているかが分かり、利用者の気持ちを理解することができました。認知症のある利用者は職員の名前を覚えてはみませんが、私のことは覚えてくださっていたことが研修の一番嬉しい思い出です。台湾の介護制度もいずれは日本の介護保険制度のようになると考えています。日本の介護保険のサービス内容や制度について学ぶことができ有意義な時間でした。

アイリーンさん (タイ)

社会福祉法人 至誠学舎立川
(東京都)

児童養護施設での研修では、18歳までの子どもたちの養育方法と心理療法（心のケア）を学びました。入所理由に「親からの虐待」が多いと聞き、日本でもタイと同じ問題を抱える家庭・保護者が多いと知りました。「子どもたちの気持ちを考え、権利を守る」という意識を職員が共有し、ケースカンファレンスを行い、毎月の心理療法で心の状態をみながらケアを行っていることが印象に残りました。さまざまな専門スタッフが、チームで子どもたちの支援をすることが大切だと思います。

障害分野での研修は、母国でかかわったことのない分野なので不安でしたが、積極的に行動しました。最初は反応が分かりにくい利用者に対しても、職員の方に相談しながら毎日話しかけ、ともに行動して信頼関係をつくりました。最終日には感謝の言葉と絵葉書を渡してくださり感動しました。



ジョアンさん (マレーシア)

社会福祉法人 肥後自活団
(熊本県)

私は、障害児に対して24時間支援を行う入所施設での研修でさまざまな日常生活を過ごすなかで「食事」の場面が印象に残りました。栄養がとれ、見た目もよく、美味しい味付けであることに感心し、「ただお腹を満たせば良い」ということではない、献立の工夫、食事環境づくりの重要性を学びました。また、子どもたちが誕生日の際には、「誕生日ケーキを誰に取り分けるか、1人で食べるか」等の決定権が誕生日の子どもにあることに驚きました。人権が尊重されている良い取り組みだと思いました。母国での支援との違いもありましたが、障害者がその人にあった環境で、安心して生活を送れるようにしたいという心を持ち、支援を行う職員の思いが共通であることも感じました。



パドゥマさん（スリランカ）

社会福祉法人 宝山寺福祉事業団 （奈良県）

研修を通し、スリランカと日本の児童養護施設の支援の違いが一番印象に残りました。

スリランカでは勉強に比重を置き、遊ぶことに時間をあまり使いません。日本の子どもたちは遊ぶ時間が多く、遊びから大切なことを学んでいるように感じました。また、ご飯の食べ方や服の着替え方等、生活に必要なことを学ぶことができていることも、子どもたちにとって良い支援だと思いました。

また、高齢者施設でもスリランカとの違いがありました。施設でゲームや体操等さまざまなプログラムが用意されていますが、スリランカの施設では、そのような光景をあまり見ません。高齢者にとって楽しく生活できるような取り組みをしていることは大切な気づきとなりました。スリランカに帰国し、この取り組みを取り入れた高齢者施設を設立したいと思います。



第1回施設研修後の研修プログラム

<p>2024年9月 ……</p> <p>10月1日 …… ～5日</p> <p>10月8日 …… ～2025年 1月17日</p> <p>2月 ……</p> <p>2月21日 ……</p>	<p>施設見学 （訪問先）神奈川県匡済会・はまかぜ（神奈川県） 横浜市内の生活困窮者の方への自立支援について学びました 中心会（神奈川県） 児童・高齢者施設での支援や県内で取り組むライフサポート事業について学びました</p> <p>第8回アジア社会福祉セミナー（修了生とともに参加）</p> <p>第2回施設研修 （研修先） チョイさん ファンさん アイリーンさん ジョアンさん パドゥマさん</p> <p>同愛会、すぎなみき会（栃木県） 暘谷福祉会、清流共生会（大分県） 慈愛会（福岡県） 常盤会、正和会（鹿児島県） 天竜厚生会（静岡県）</p> <p>施設見学</p> <p>修了式</p>
---	---

2024年度アジア社会福祉従事者研修修了生助成事業 中間報告

～各国の福祉課題に取り組む修了生の活動をサポート～

国際交流・支援活動会員の皆さまから寄せいただいた会費をもとに活動している国際交流・支援事業では、「アジア社会福祉従事者研修修了生助成」を毎年実施しています（※）。修了生による福祉活動への助成を通じ、各国の社会福祉とともにサポートする事業です。2024年度には、4か国（フィリピン、タイ、スリランカ、インドネシア）の8事業に対し、助成を行っています。修了生から届いた「助成事業の中間報告」より、本号では3つの活動について紹介します。

※ 2024年度の本助成事業の実施にあたっては、日本社会福祉弘済会、毎日新聞東京社会事業団からもご支援をいただきました。



「障害児の保護者に対する職業訓練プロジェクト」 ニー（タイ・36期）

どんな課題に対する事業？

- 活動地域には障害のある子どもとその家族が生活しており、経済的な困難を抱えています。子どもは家庭で育てているため、保護者は家にいなければなりません。
- 保護者から「家で子どもを見つつ、生活を支えるための収入を得る方法がないか」と相談を受けることもあり、こうした家庭でも子どもの状況にあわせた働き方で収入が得られるよう、職業訓練のプログラムを実施しました。

活動の状況（中間報告）

障害がある子の保護者たちは、肉体労働や農業に従事している人が多く、両親ともに働きに出ることは難しい状況にあります。柔軟な働き方を選ぶためには丁寧な訓練と準備が必要であるため、2つのステップでサポートを行っています。

1. さまざまな職業、働き方に関する知識と、必要なスキルを訓練
—現在は、在宅で作業できる工芸品の製作を訓練しています
2. 訓練終了後の就労状況や悩みごと等をサポート

本プロジェクトでめざすもの

まずは、希望する（潜在的なニーズも含めた）保護者たち全員が、職業訓練に参加できることをめざしています。そのなかで、自分にあった職業や働き方を見つけて働くことができる保護者が増えることで、「障害がある子どもを育てる家庭は経済的に困窮している」という状態を変えていきたいです。



障害がある子どもと一緒に、保護者の学び・職業訓練をサポートしています



「聴覚障害児の未来に向けて、芸術的な才能を伸ばす支援」 サンジーワ（スリランカ・23期）

どんな課題に対する事業？

- 私たちの団体は、障害児を対象とした学校を運営しています。物価が高騰し、国の情勢が不安定ななかでも、子どもの将来をサポートし、私たちの活動も安定して続けていかなければなりません。
- 聴覚障害児が持つ才能と創作意欲に日々接するなかで、その才能を伸ばし、芸術的な価値のある作品を生み出していくことで、子どもたち自身が将来、安定した収入を得ることができるのではないかと考えています。

活動の状況（中間報告）

この活動は、子どもたちの才能と意欲を大切にしながら進めています。

1. 子どもたちの芸術的な才能を伸ばす教育を実施
—高いレベルによる描画技術の指導、必要な道具の提供など
2. 将来のキャリアをサポート
—外国人、団体等を対象とした販売会を実施し、将来、子どもが個人事業主として自立していくためのノウハウやつながりをサポート
3. 子どもが幸せに生きていくために必要な自信、プライドを身につける
—プログラムを修了した子どもへの証明書の発行、販売収益の支給（一部、学校運営にも充当）

本プロジェクトでめざすもの

自分が頑張って描いた絵が評価される（お金になる）ことは、経済面だけではなく、子どもたちの自信と生きがいにもつながります。また、子どもや保護者と相談しながら、収入の一部を学校運営にも充てており、障害児をサポートする私たちの活動を次の世代につなぐこともめざしています。



“子どもの才能×ハイレベルな教育”で経済的な価値のある作品が次々と生まれています



「高齢者向けの健康に関する意識啓発事業」 エレナ (28期)



高齢者の健康チェックを行いながら、コミュニケーションをとります。

どんな課題に対する事業?

- 所属する団体では、高齢者を対象とした健康向上プログラムを運営。200人以上が参加し、健康チェックやワークショップを実施していましたが、新型コロナ感染拡大防止のため、活動を中止していました。
- 慢性疾患を抱える高齢者が、新型コロナへの感染を恐れて医療機関の受診を控え、薬の服用を自己判断で中止してしまうなど、コロナ禍は高齢者の日常生活に大きな影響を与え、不安・恐怖・孤立感のレベルを高めたと感じています。
- コロナ禍が明けた今、高齢者の健康を再びサポートするため、プロジェクトを立ち上げました。

活動の状況 (中間報告)

私たちは、3つの柱をもって高齢者の健康を向上させる活動を進めています。

1. ライフスタイルや健康状態のチェックと、健康的な生活へのサポート
— 健康診断の実施、エアロビクスによる定期的な運動、栄養サプリメントの配布
2. 健康に関する正しい情報と学びを得る機会を提供
— 専門の保健教育家による健康教育、栄養バランスの良い料理を学ぶ料理教室
3. 高齢者同士、また高齢者とスタッフが支えあう関係づくり
— 「お話し会」、創作活動を通じた交流機会づくり

本プロジェクトでめざすもの

高齢者が正しい知識と情報を得ることで、自分自身の栄養状態やライフスタイルを向上させることを目指しています。また、コロナ禍で途切れてしまった他者とのつながりを再構築し、お互いをいたわりあう温かな関係性をつくりたいと考えています。

おくやみ

アジア社会福祉従事者研修修了生のノックさん (Hataichanok Rattananpan/ Ms.・19期) が2024年6月16日に逝去されました。(享年53歳)

タイのThe Foundation for Child Developmentに所属していたノックさんは、2002年に来日し、社会福祉法人白皇山保護園、社会福祉法人地域福祉協会等で研修しました。

同じく修了生のチャイヤーさん (Chaiya Sumalee/Mr.・16期) がアジア社会福祉セミナー前日の9月30日に逝去されました。(享年52歳)

タイのFoundation for Children with Disabilitiesに所属していたチャイヤーさんは、1999年に来日し、社会福祉法人白皇山保護園、社会福祉法人三愛荘等で研修しました。



謹んでご冥福をお祈りいたします。

国際交流・支援会員募集のご案内 ～会員募集中!～

全社協では、「アジア社会福祉従事者研修事業」や修了生助成事業をはじめとする、アジア地域の福祉向上、国際交流のための事業に取り組んでいます。これらの活動は、資金面、活動面ともに国際交流・支援会員の皆様からのご協力により成り立っています。

国際交流・支援活動会員へのご入会は随時受け付けています。

■会員登録

以下URLまたはQRコードより登録手続きをお願いします。

追って、パンフレット等のご案内をお送りします。



<https://forms.gle/znx195SYVPVN9Wr9A>

会員区分・会費 (令和6年度・年間)

- ア) 法人・組織会員 (1口5万円) : 国際交流・支援活動 (育むプロジェクトを含む) にご参加・ご支援いただける法人の方
- イ) 個人会員 (1口5千円) : 国際交流・支援活動 (育むプロジェクトを含む) にご参加・ご支援いただける個人の方
- ウ) 賛助会員 (1口5万円) : 主に経済的に活動を支援いただける法人・組織の方
- エ) 育むプロジェクト支援会員 (1口5千円) : 育むプロジェクトにご参加・ご支援いただける法人・組織、個人の方